

平成 19 年度 第 1 回学校協議会

平成 19 年 7 月 20 日

1、初めのことば（司会 大角教頭）

あいさつ（西村校長）

2、自己紹介（委員）

宇治野清隆 箕面市立病院事務局管理課長

阪本勝昭 箕面市健康福祉部障害福祉課相談・支援担当主査

竹内恵子 あいほうぶ吹田施設長

田中成和 高等部保護者代表（PTA会長）

田中まや子 吹田市立わかたけ園保育士

南田誠三 池田子ども家庭センター地域相談課課長補佐

本校職員（略）

3、上野前会長より

昨年度の提言として学校教育計画 27 ページに載せてありますのでご覧ください。今年から「個別の教育支援計画」が試行の段階となり、施設等サービス利用も学校も協力しながら活用されるのが課題かと考えております。人権については、学校がやっていることやこうすればいいということなどについて今後も提言していきたいと考えています。

4、協議会会長選出

田中成和委員を会長に選出する。

5、一年間のテーマ

「特別支援学校として学校と地域との連携のあり方について」

6、学校紹介

学校の概要（松浦教頭）今年度は6人中5人まで新しいメンバーでまず第1回目として学校全体の概要を説明し、2回目以降「地域との連携」というテーマを深めていきたいと思えます。まず学校要覧をご覧ください。本年度は創立23年目に入っています。100名以上の職員・医師（非常勤）・看護師のスタッフがおります。校区は4市2町にわたり、生徒数小37、中34、高67、計138人の児童生徒が在籍しております。医療のケア対象者は34.8%、通学バス8台。あと組織図委員会については学校教育計画をご覧ください。以下各分掌より説明を加えたいと思えます。

進路 本校卒業後の進路は各種の福祉施設、就職、能力開発校等々とさまざまです。最低限の目標としては家庭保護（在宅）にならないようにと考えています。今年の3月の卒業生では家庭事情により1名が残念ながら在宅になりました。このケースでは在住市の障害福祉課を中心に相談支援センター及び学校が連携し、支援の方法について継続して話し合いをもちました。高等部から卒業後への移行支援については1年生での進路アンケートに始まり、進路選択に向けて本人を中心に学校と保護者が共同して体験実習に取り組んでいます。体験実習の時期は1年生は3学期、2年生は2学期、3年生は1学期を基本に、実習場所や日数は話し合いにより個々の目的や必要に応じて設定します。実習の評価をして教育活動に反映させながら、卒業時点ではより望ましい進路選択になるようにと考えています。卒業後の進路先には担当が訪問し、本人のプロフィールや学校での活動状況とともに必要な支援方法等について引継ぎをしています。

地域連携 本校では小中学校等への支援（教育相談）と本校在籍児童生徒への支援<校内支援>の二本柱になっております。<地域支援・小中学校への支援>箕面・豊中・池田・豊能・能勢が対象地域です。池田・箕面・吹田の協議会にはメンバーまたはオブザーバーとして参加しています。<校内支援>ネットワーク・本校児童生徒はどんな生活をしているか、そういう情報を読み取りながら、また子どもの状況を読み取り、それらをどう活かすかが今後の課題です。進路部や地域連携がやっていたことを総合して、箕面養護学校らしいシステム作りをしている段階です。

自立活動 ・位置付け 「自立活動」が教育課程に 各教科 や 特別活動 とともに位置づけられている点では一般校の教育課程との大きな違いであり、それが養護学校の特色ともなっています。・校務分掌の役割 対外的な業務としては自立研に参加することです。 校内的には自立活動の指導内容等への相談・助言に関して一定の中心的役割を果たすことです。 ・課題 指導の充実を図り、自活への理解を深める。子どもの実態を捉えるアセスメント力の向上、進路先への引継ぎなどスムーズかつ有用な連携を考えていくことです。

研究推進 ・特別支援教育に関する研修、並びに人権尊重の教育の推進を中心に活動をすすめています。人権研修では職員に対して人権週間やセクハラ窓口を設けたり、年2回の研修によって、人権意識を高める努力をしております。児童・生徒に対しては授業やホームルームを使って、人権の尊重を図る教育に取り組んでいます。その他として、新検査器具を導入しての心理発達検査を行ったり、大学生を対象にした介護等体験実習を行なっています。また隔年に「研究紀要」を発行し、本校の教育内容を発表をしております。実践交流会を通じて各校との交流を深め教育内容の充実を図っています。

7、質疑応答

司会：進路、地域連携より「連携」ということば 自活、研推より指導力の充実とそ
のための研修及び人権ということばが出ました。地域連携、個別の教育支援、

人権が昨年度の学校協議会のテーマでした。今年度はそのテーマ、課題について各分掌で模索・試行中です。学校として実践力のある組織構築を図っていききたいと思います。

Aさん：特別支援学校の定義は？

校長：今までの指導教育から、サポート（支援）という発想に変わります。スペインのサマランカ宣言に発し、障害を持った人も望む支援を受けながら普通に健常者と共に暮らすということです。今までの完全参加というのは、健常者と障害者をあくまで分離していたけれども、インクルーシブとしてもともと一緒なんだ、という考えにたつものです。学校は多様な教育的ニーズに応え、また積極的に地域支援を行なっていきます。養護学校が不要というわけではありません。

司会：本校は肢体不自由、知的障害が中心ですが、将来的には、視覚・聴覚障害をはじめ軽度の発達障害にも対応することが求められるようになるかもしれません。「文科省・特別支援教育のあり方」によれば、障害種別のない学校イコール特別支援学校となります。センター的役割として4市2町の発達障害を含めての障害児教育に関わる支援を行なうことになるかもしれません。

Aさん：幼稚園・保育所は？

地域連携：今年から幼稚園から高校まで対応するようになりました。

司会：多数の支援相談に対応するとなると体制的に難しい面もあります。

校長：発達障害のある大学生もいます。学力はあるが人間関係に挫折するケースもあるそうです。そういった人たちにも対応していくことになります。

Bさん：今後の就学傾向についてお聞きしたいのですが。市町村により大きく異なるデータがでてくるのですが。

校長：地域により「できれば普通学級で」という流れもあり、小中学校では児童の実態・障害を把握しきれないかもしれません。

Cさん：医療的ケアを必要とする子どもさんが地域校へ行くこともありますが、医療的ケアの子は昨年まで確実に看護師がつくという保証はなく、医療という面で養護学校を選択しました。

司会：市町村の小中にも府下50%予算で看護師が配置されました。

Cさん：常時医療ケアでないと配置されないというのが今の段階で、かえって、選択しにくい状況のように思います。

Dさん：A施設では医療的ケア必要とする人が増加しています。自立支援法で定員が増加しましたが、そろそろしんどいです。数年先の受け入れが不安です。

進路：医療的ケアの必要な人の進路については特に不安です。生活介護面でのケアが多く必要な人についても、受け入れ先の職員体制の関係で進路先が限られているのが現状です。今後ますますきびしくなっていくのではと心配です。

Cさん：(地域校と養護学校には)それぞれのメリットがあります。養護学校と居住地校交流が少しずつ増加しています。地域では少しずつ看護師配置が増加しています。地域教育支援を進める上で必要と感じる専門職種はありませんか。

自活：基本的にはまず学校職員が相談内容に対応していけばよい。その力が及ばなければ、事前に専門性をもつ人から研修を受けるなどして対応していく。それが教員の力をのばしていくことにもつながります。

地域連携：主に肢体不自由に対して、例えば、ある市ではA、Bの専門職員が巡回相談をしているが、それでも現場には不安の声があります。専門性と生活面とは違いが出てきます。訓練的に考えれば、行う方がよいことを生活面でどう展開していくかなどについて教員ができることを一緒に考えている。

Cさん：この秋、療育支援交流センターがオープンする市もある。地域にどれだけ専門性が与えられるか見守りたいです。

司会：専門職導入への流れは、全国的な流れとなってきました。

校長：養護学校のみならず一般的にもそういう流れでありそうです。教員がバリエーションを持つよりも、専門家が入ったほうが能率が上がるのではないかと思います。さきがけとして臨床心理士が導入されているところもあります。

司会：子どもの実態に応じた職員編成を考えねばなりません。学校も総合病院のように、専門家集団が運営するようになるんじゃないかという人もいます。

Eさん：「特別支援学校」は聞き慣れないです。肢体中心でしょうか？府の取り組みどうなっていますか。

地域連携：全国でも名前が変わりつつある現段階で今後はどうなるのかは、はっきり言えません。

Fさん：特別支援学校として学校と地域の連携のあり方が重要です。少子化の中でも障害児・者が増えてるという状況があります。ただ名前が変わるということでしょうか？まず役割を明確にすべきですね。そしてそれを地域に示さないといけません。地域が受身なのか指導的立場なのか。学校がどんな役割を担うのか。厚労省の管轄下にある医療・福祉との連携はどうなるのか。行政の縦割りの壁が養護学校にも障害として残るのでしょうか。地域がクローズアップされていますが、箕面養護学校における地域を明確にする必要があります。コミュニティは広すぎてもいけません。地域密着型であってほしいですね。地域にある学校をサポートする特別支援学校であってほしいです。あと2回で先が見えるか心配ですが、おそらく看板が変わるでしょうし養護学校として最後の学校協議会になると思います。歴史に残る協議会にしたいと思います。

司会：今日のご意見を参考にして今後とも議論を深めていきたいと思います。第2回は12月を予定しております。皆様今日はご苦労様でした。